

復興大臣臨時記者会見録

(平成27年1月12日 (月) 12:40～12:46 於) 東京国際フォーラム)

1. 発言要旨

今日はこの福島の大フェアに、わざわざおいでいただきまして、ありがとうございます。私も来てみてびっくりしましたのは、もうこれだけの人数、福島出身の方もたくさんいらっしゃると思います。しかし福島頑張れという人も、たくさんいるんじゃないかと。心が温かくなるような思いで、今、回らせていただいております。ますますこれから、復興を加速化していかなきゃいかんなど、本当に改めて強く感じておるところでございます。

2. 質疑応答

(問) 今日何か所か、ブースを回られていましたが、印象的だったのはどういうところでしょうか。

(答) 1つは、子どもたちがいろいろな作業をしているのを見まして、もう未来のために、おれたちが頑張らなきゃいけないな、と思ったところです。あと、やっぱり原発の事故にあわれた地域の方々が、元気に、いろいろなものをつくったり、売ったり、さらには新しいものを開発したり、本当に人間の可能性というのは、どんどん広がっていくんだなということも感じましたし、ここで集まっている皆さん方が応援してくれているというのも、有難いたいなと本当に思いました。

(問) 子どもたちと言えばですね、きょうは農業高校の子たちが、自分たちのつくったものが安全をPRしていて、すごく前向きなところもあって、大臣はご一緒に写真撮影されていましたが、彼らとは何かお話しされましたか。

(答) 実は昨日から出てきているんだそうです、彼たちは。東京の空気吸うのはいい、と言っていました。やっぱり田舎にずっといるのも、1つの方法ですが、時々東京から田舎を見つめるというのは、実は外から自分のふるさとを見るというのは、非常に大事なことでありますので、子どもたちにこういう機会をどんどん与えてあげるというのも、大きな要素だと思います。

(問) 福島の県民の方々は、やはり風評とか、風化というのも、大変気にされているんですけれども、復興庁として、今後はどういったところを応援していきたいとかはありますか。

(答) 我々も、今、2つの風です。風化と風評被害、この2つの風をどうやって乗り越えていくかというのは、復興を進めていく上で、非常に大きな壁になっておりますけれども、時間の問題、時間を乗り越えなければならぬ問題もありますし、逆に風化は、時間が経てば経つほど、これはむしろマイナスに働きますし、いろいろ難しい問題はありますけれども、我々、復興するんだと。その復興の中心は、人なんだと。そういうことを、これからも根っこにおいて、やり続けていけば、そのうち必ず、元気にな

ってくると。被災した皆さん方に元気になってもらうのが、我々の狙いでありますので、ぜひそういうふうにしていきたいと思います。具体策はないんです。こうすればよくなるという、特に風評被害については、なかなかこれを乗り越えるのは、難しい問題がありますので、悩んでいることは事実です。ただし、記憶の風化については、こういう催し物を、いろいろな全国でやってもらう、あるいはいろいろな企業の皆さん方や、NPOの皆さん方が、全国各地でいろいろなことをやっていただいているということが、風化を少しでも止めることに、役に立っていることは間違いない。こういうところへ来てみられると、もう一回、福島なり、あの東日本の大震災のエリアを、思い起こすという人はたくさんいますので、そういうことを通じて、風化を防いでいきたいなど、こう思っております。

(以 上)